

令和7年度 中津川市区長会連合会

「地球温暖化防止に向けた取り組み」各地区の取り組みのまとめ

中津川市区長会連合会事務局（地域づくり協働課）作成

■中津西地区

【行った取り組み】

家庭ごみ減量化を図るため、中津西まちづくり協議会と連携して「雑紙もリサイクルできる資源です！」の啓発活動に取り組んでいます。具体的には、令和7年3月に愛知県西尾市ごみ減量課を視察したことを踏まえて

- (1) 屋外用ポスター「雑がみは資源です」とチラシを作成、雑がみ回収袋も配付
- (2) 西地区広報「私たちの西地域」での記事掲載
- (3) 75歳以上の一人暮らし食事交流会で環境推進委員による“雑がみの取扱い講習会”を開催

【課題】

- (1) 市が主導して、家庭ごみの減量化という課題の重要性や緊急性、そしてごみ処理に多額な費用がかかっていることや具体的なデータを住民ひとり一人にしっかり伝えなくてはいけないと考えます。各家庭や個人の共感が無ければ、「行政だけにメリットがあるだけでは？」となってしまいます。
- (2) 毎年、区長会連合会へ報告していますが市の環境行政とどのように連携しているのかわかりません。各地区へ計画と実績を出させるだけならやめたほうがいいのでは。少しでも区長会の仕事が減らせます。

■中津南地区

【行った取り組み】

- 1 可燃ゴミ回収事業者（ケイナッククリーン）と連携して原則最終木曜日（12月は第3木曜日）の可燃ゴミ回収に合せて、南地区各区で廃食用油の回収を実施。
令和7年1月からの1年間の回収実績は、780.2ℓ/年（月平均65.0ℓ）
CO2削減量2028.5kg 収益金額15,604円
回収量は年々増えつつある。回収実績は都度、区長会にて情報を共有している。

- 2 南小学校にて児童会の取り組みとして廃食用油回収を実施したいとのことで、その意義と再利用についてケイナッククリーンに説明をお願いし意識向上を図った。

- 3 その他各地区独自活動

- ・東七区 地域ゴミ拾いボランティア活動
- ・西七区 役員会資料のペーパーレス化
- ・九区 リサイクルボックスでの資源回収
- ・昭和区 老人会で年6回古紙回収10t/年
- ・中村区 古紙回収180t/年
- ・一色区 リサイクルボックスでの資源回収
- ・19区 子どもボランティア活動（秋葉公園落ち葉清掃－農耕利用者に配布）
- ・尾鳩区 刈草の堆肥化（借上げ農地で活用）、古紙回収（年3回、3.16t）
- ・川上21区 砂防工事伐採木有効活用（木炭生産）、リサイクルボックスでの資源回収



【課題】

- 1 廃食用油の回収
 - ・ゴミ回収の遅れや忘れによる苦情が発生した場合に地域住民への説明がその都度必要になっている。
 - ・区毎に住民の考え方に違いがあり全体の理解を得る為に要望等を実現できるよう勧める必要性がある。但し今年度2つの区で対話をし、回収場所を増やした実績があり。また、児童会からのアピール活動が今後保護者等の意識改革につながるよう期待している。
- 2 各区独自の活動
 - ・昨年同様に日時等の制約があり参加者が限定される場合が多い。
 - ・高齢化で古紙回収など収集場所まで運ぶことが困難な方が増えつつある。
 - ・啓発活動の推進を進めて全員参加の意識向上を目指す必要がある。

■中津東地区

【行った取り組み】

①食品ロス0化に向けての取り組み

- ・取り組みの意識と食品ロスを減らすコツで、買い物で気をつけること
家庭内での食品の扱いに気をつけることを説明した回覧文書を6月と10月の2回発行して取り組みの周知と協力を啓発した。

②廃食油回収

- ・昨年に引き続き地区内に17か所拠点回収場所を設定し拠点回収としました。
1月から12月の1年間で回収量719.6ℓ回収できました。
これをCO₂削減量に換算しますと、1871kg/年・月平均156.2kgとなり、
約1.9t弱の削減ができたこととなります。



【課題】

- ・食品ロスの0化の取り組みは引き続き理解と啓発をして協力を依頼していく必要がある。

■苗木地区

【行った取り組み】

苗木地区区長会は下記の3つのゴミ減量作戦を区民に呼びかけ実施した。

- ① 雑がみリサイクルでゴミ減量作戦
- ② 廃食油でゴミ減量&CO₂削減
- ③ 家庭の水切り徹底で生ゴミ削減

<実施方法や内容>

- ・苗木事務所が発行する「なえぎ通信6月号」でR6の取り組み実績報告、「なえぎ通信8月号」に令和7年度の取組み内容を掲載。
- ・令和7年度実績（途中経過）

- ① 雑誌 25,538kg（4月～12月）前年比99%
- ② 廃食油 982.1ℓ（4月～12月）前年比93%
- ③ 「家庭での水切りの徹底で生ゴミ削減」は「生ゴミ水切りの徹底の呼びかけ」を掲載（8月号）
数量実績（効果）は把握できなかった。

また、毎月の区長会資料に廃食油回収量を掲載し、区民に取組み状況を周知。

【課題】

1. 業者リサイクルボックスが増えてきた状況の中で、雑がみリサイクルは前年度とほぼ同じ回収量となっており、効果があったと考えており課題はない。
2. 廃食油回収箱の存在はゴミを出す人だけが知っている状況もある。安易に捨てずに「廃食油」を回収する意義を家族全員が共有し、理解を深めていく必要がある。
3. 集積場の場所や広さに問題があり、全ゴミ集積場に廃食油回収箱が設置されていない現状もある。
小型廃食油回収箱の設置を進めていきたい。

■坂本地区

【行った取り組み】

- ・5月 区長会にて令和7年度は廃食油の回収を令和6年度に引続き継続して取り組むことを確認
「地域版広報誌 さかもとマイタウンニュース」に1回記事掲載（6月号）
- ・4月から12月までの9箇月間の回収量 716ℓ（月平均約80ℓ）

【課題】

- ・令和5年10月から取組んでおり、令和7年4月～12月までの回収量は716ℓで、令和6年の同期間に比べ約1.3倍増加。
- ・回収の取組は、徐々に地域住民の方に認知されつつあると思われる。
- ・取組みの積極的な周知に努め、回収量をさらに増やすことが必要であると考えている。

- ・回収量が大きく増えるようなら、回収場所を増やすことを検討していく。
(現在の回収場所は坂本事務所 1 か所であるため)

■ 落合地区

【行った取り組み】

落合地区区長会にて、「雑紙の分別収集」の共通目標を設定、各号区ごとの取り組みを推進した。

- ・回覧板等を利用して各戸に取り組み推進を PR した。
- ・リサイクルボックスの利用推進。
- ・PTA の資源回収に地区を挙げて協力し、雑紙回収を促進した。

【成果】

- ・取組の PR は、区民に理解され、資源回収（排出ごみの削減）に貢献できている。
- ・リサイクルボックスの利用が促進されている。
- ・マイバッグの利用推進、号区独自の資源回収実施等の活動の展開がみられた。

【課題】

- ・「燃えるゴミ」の減少等定量的な数値化ができないので、評価が難しい面がある。
- ・区民に定着してきており、別の目標設定に移行してもよいのではないかと意見もある。

■ 阿木地区

【行った取り組み】

- ・阿木区長会で具体的な地区目標「廃食油の回収、雑誌の回収、及びリサイクルボックスの活用に取り組みます。」を掲げ、全世帯に呼びかけを行う。
- ・雑誌の回収及びリサイクルボックスの活用（継続）
6月と9月の年2回、こども園、小学校、中学校 PTA を主体として資源回収を実施
リサイクルボックスの利用を区長会を通じて、全世帯に呼びかけを行う
- ・子育て用品リユースの取り組みを行う（継続）

【成果】

- ・廃食油の回収量が増えた。引き続き広報などで周知を行い、地域への定着を行っていく。
令和 5 年 9 月～令和 6 年 8 月までの配食油回収量 477.8 ℓ
令和 6 年 9 月～令和 7 年 8 月までの配食油回収量 509.9 ℓ（前年比：106%）
- ・子育てリユース（9 件）
中学校の制服 中学校ジャージ 幼児のおもちゃ 子供椅子 等

【課題】

- ・SDG's の意識啓発のためにも地域での取り組みを続け、定着させることが必要。
- ・今後、少子化等で PTA の人数が減ると作業が困難となり、資源回収の実施が難しくなる。

■ 神坂地区

【行った取り組み】

- 1) 雑紙回収の取組推進
 - ・3月の定例区長会・町内会長会にてリサイクルに関する出前講座を実施予定
- 2) 廃食用油の回収
 - ・毎月の資源ごみ回収日に合わせて廃食用油の回収を実施している（今年度は2年目）。
 - ・廃食用油回収量の実績「4月～1月まで」 641.0 ℓ
※参考値：昨年度実績「4月～3月まで」 526.4 ℓ

●月別での取組状況

通年：雑紙回収、廃食用油回収

3月：雑紙等のリサイクルに関する出前講座（リサイクル企業等に講師を依頼予定）

【課題】

- ・ごみの減量に関しては、目標を設定しても数値的に実績を積み上げていける取組が限られている。また、数値目標の設定や削減効果の見える化が難しい。「何を、どれだけやって、CO2がどれだけ減りました」と見える化をするためのノウハウを指導してほしい。
- ・国内での物価高に対し、各家庭でコスト削減につながり環境にもやさしいという取組を紹介してほしい。これに関していえば、ごみの減量だけでなく、電気・ガス、石油などのエネルギー削減による家計負担の削減とCO2削減について全市的に啓発を推進していくべきである。

■山口地区

【行った取り組み】

- ・6月：地球温暖化防止に向けた地区としての行動計画の検討
- ・6月～12月：区長会、区長・町内会長・まち協合同会議において、地区内への周知を毎月行なった。

【成果】

- ・残念ながら、目立った成果は上げられなかった。

【課題】

- ・地区内のリサイクルボックスは1箇所（総合事務所駐車場）なので、近隣地区のリサイクルボックスも活用する必要がある。（地域住民がよく利用するスーパーの駐車場にある）
- ・紙を安易に可燃ごみとして出さないよう、習慣づける工夫が必要だが、今のところ繰り返し周知する以外、効果的な方法が見つけられない。

■坂下地区

【行った取り組み】

- ・坂下地区の重点目標

- ①木箱コンポストの有効性確認と地区内への波及
 - ②手軽にできるバケツコンポストの作り方講座開催
- ・活動実績

- ①木箱コンポストの有効性確認について

2年間に亘るモニター活動の結果、一定の条件（設置場所や生ゴミの内容等）

を考慮することは必要であるものの、生ゴミを減少させる手段として有効であることを確認した。

この結果を受けて地区内での木箱コンポストの作り方講座3回目の開催を計画し市当局へ予算確保の要請を行ったが、当局としては「予算が無いので別の方法を考えて欲しい」との回答であり、検討の結果「バケツコンポストの活用による生ゴミの減少」を目標に「作り方講座」の開催を計画することとした。

- ②バケツコンポスト講座の開催

- ・日 時・・・令和7年9月21日（日） 10:00～12:00
- ・会 場・・・坂下公民館
- ・参加者・・・10人
- ・その他・・・案内チラシ、当日のスナップ写真（添付のとおり）

【課題】

- ・坂下地区の重点目標について

今年度は、地区目標「木箱コンポストの効果把握と波及」として3年目の活動に取り組んだが、都会ならまだしも坂下では生ゴミの処理は屋外の畑等を利用した生ゴミ処理ができる環境も多く、木箱やバケツコンポストの波及には難しさも感じた。

- ・その他

この種の取り組みは、連合会で簡単な説明を行い後は地区でテーマを決めて勝手に取り組んで欲しいという程度のアナウンスでは各地域に浸透させることは困難と考える。地区としても言えることではあるが、行政としてもっと熱量が欲しい！全市的な取り組みが必要である事は理解するので、進め方についてはもう少し熟慮願いたい。



■川上地区

【行った取り組み】

- ・年2回（5、11月）各地区員及びPTAと協力し資源回収（新聞紙・雑紙・ダンボール・アルミ缶）の実施。
- ・資源回収以外での随時利用によりリサイクルボックスの有効活用推進。

【課題】

- ・感涙におけるスチール缶の混入、紙類における広告・雑紙・本等の不十分な分別があり、分別の徹底が課題。
- ・高齢化、人口減少による出席者の減（一人当たりの作業量の増）、リサイクルボックスの設置増などにより資源回収の取り組み方法の検討必要変更

■加子母地区

【行った取り組み】

- ・5月 定例区長会にて地球温暖化防止に向けた取り組みを紹介し、加子母地区の目標を決定。
- ・8月 加子母地区区長会で地球温暖化防止のチラシを作成し、各戸に配布。取り組みを依頼。
- ・1月 定例区長会にて再度、加子母地区の目標を地域住民へ周知し、取り組みを依頼。

【課題】

- ・具体的にどの程度ゴミが減量し、地球温暖化防止になっているのかを把握することは難しい。
- ・どの程度の実行率かを知るためにアンケート等が必要。
- ・リサイクル倉庫の利用やPTA資源回収への協力など、PRの徹底。



■付知地区

【行った取り組み】

- 5月：定例区長会にて地球温暖化防止に向けた取り組みについて、付知地区の目標を「廃食油の回収」に決定。
- 7月：定例区長会にて廃食油の回収チラシを回覧し地域への周知を行った。
- 随時：地域の広報無線において、廃食油回収事業の周知を行った。

回収量：1522.1ℓ（※12月現在）



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
140ℓ	128ℓ	145ℓ	106ℓ	260.1ℓ	191ℓ	142ℓ	160ℓ	250ℓ	1522.1ℓ

回収量は、昨年度に比べると1.5倍に増加している。（令和6年度975.3ℓ）

売上金は、1522.1ℓ×20円/ℓ=30,442円（4～12月分）

※売上金については、全額をまちづくり協議会へ寄付します。

【課題】

- ・地域へ周知を行う事で、回収量が増えてきている。引き続き区長会を通して周知する。
- ・廃食油に限らず地域のごみ減量を図る為、まちづくり協議会や小中学校と連携して、リサイクル資源倉庫等への資源ごみの拠出の啓発をしていく。



■福岡地区

【行った取り組み】

- ・4月 各町内会長へリサイクルボックスへの搬入協力を依頼した。
- ・6月 区長会で地球温暖化防止に向けた取り組み内容を協議した。

- ・通年 当番制によりリサイクルボックスの清掃活動を行った。

※リサイクルボックスごみ収集量（11月末現在）64.2t（前年同月 75.4t、-11.2t、前年対比 85.1%）

【課題】

- ・民間による資源回収施設の増加によりリサイクルボックスでの収集量は減少している。
- ・エアコン廃棄時のフロンガスの大気中への放出は、二酸化炭素の数万倍も温室効果になるため徹底した対策が必要である。

■ 蛭川地区

【行った取り組み】

- ・区長会・学校運営協議会等で計画を協議
- ・小学校 4 年生 25 名を対象に、地球温暖化の現状と防止の必要性を説明し、家庭で出来る防止対策のポスターの作成を依頼
- ・25 枚の作品から優秀作品 1 枚を選出し、B4 版のポスターを 1000 枚作製
- ・自治連合会にてポスターを配布し、各家庭と地区公民館等に掲載を依頼



【成果】

- ・各地区のごみの収集時には、アルミ缶やペットボトル・スチール缶及び紙の分別が出来て、リサイクル出来るごみの量が増えました。
- ・燃えるごみに混ぜて出されていた生ごみがかなり減った様です。

【課題】

- ・別荘に滞在している自治会員ではない人達の滞在状況等が明らかで無い為に、燃えるゴミの分別や缶類の分別を指導する機会も無く、又指定ではないゴミ袋で収集場所に放置する者も居り、管理の当番が苦勞をする事も少なくない。
- ・老人など介護を要する家庭については、ゴミ出しなどについても擁護が必要であり、各地区内での福祉推進員・民生委員等との連携などが必要。